

か た の が は ら

交野ヶ原物語

増刊号 vol. 7



発行日：2019年9月8日

発行元：天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクト

交野ヶ原 4コマまんが劇場

交野ヶ原にまつわる4コマまんがを交野市で活動されているきくつぺさんが描いてくださることになりました!!4コマまんがを通じて交野ヶ原のことをもっと好きになろう!!

★作者プロフィール★

きくつぺです!!
グラフィックデザイナーとしてマス.
枚方市育ち、交野市在住です。
枚方歴20年以上、交野歴20年以上。
まさに交野ヶ原ビートル!!
枚方 + 交野 = 交野ヶ原
大好きなことは空の字を揃えること
交野の星山をめぐって歩くこと
おいしいものを食べること
こいしとイキすること



五七五!! 交野ヶ原のリズムで川をみよの巻



プロジェクトメンバーも驚きの応募数をいただいた「星の俳句コンテスト」。インターネットで知り、学年単位で応募してきてくださった学校もありました。締切日が近づくとどんどん増える応募作品に、こんなにたくさんの方々が星に想いを注いで俳句を考えてくれたのだとメンバー一同嬉しくなりました。

というわけで、来年も同じ時期に第二回を開催いたします!ぜひみなさまふるってご応募ください!

作品記入欄

天の川のあるこの場所へ 星降るまちの 星俳句 コンテスト

募集期間
2019年
5月7日～6月10日

令和元年
星の伝承が多く残るこの地で
星に想いを注いで
俳句を作ってみませんか?

【題・テーマ】
「星」にまつわるもの

【募集部門】
小学生(幼児含む)の部
中学生の部
高校生の部
一般の部

【審査員】
夏石善夫氏
(大阪府教育委員会)

【お問い合わせ先】
交野ヶ原日本遺産プロジェクト事務局
〒599-8201 大阪府交野市大津町1-1-1
TEL:072-650-5339・5106(事務局)

※応募料は無料

※応募しなくても大丈夫

わすか十七文字に広がる
大宇宙だモオ!

来年も
やります! 第二回 星の俳句コンテスト

『交野ヶ原物語』のバックナンバーはどこで手に入るの?!

最近、『交野ヶ原物語』の発行を楽しみにしていますという声や、バックナンバーはどこで手に入るのかとの嬉しいお問い合わせをいただきました。発行後は枚方市内の図書館や生涯学習市民センターに配架していただいています。バックナンバーは基本的には当プロジェクト主催のイベントでその都度配布しています。

令和元年七月七日 星の俳句コンテスト表彰式

世界最短の定型詩だとも言われる俳句は、近年ブームで終わらず、我々の生活の中にとろりと浸透している。古来からある五七五のリズムが、日本人の心に心地よく響くのであろう。

この俳句を通じて星のふるさと交野ヶ原の魅力を再発見していただこうと、第一回星の俳句コンテストが開催された。日常、空を見上げて、星や太陽や月の光に心を馳せる機会が少なくなった現代社会にあつて人間性を取り戻す良い機会になるにちがいない。そしてその俳句を七夕伝説の伝わる当地の七夕の日に吊るそう。そんな思いでの企画を立ち上げた。

七夕の日の二か月前であった。年齢を問わず、地元小学校、中学校を始め多くの方々に応募していただいた。特に子どもたちの感性でもって、星を見上げた時の自分の気持ちを、俳句を通してなんらかの形として残せたらと、密かに思っていた。わずかな期間ではあったが、それぞれが奔走して、応募を募った。俳句の選者を俳人夏石善矢先生にお願いした。表彰式の会場は、交野ヶ原の降星伝説の伝わる星田妙見宮である。

当日は、大阪府・交野市・枚方市からも、市長を始め後援関係者とともに、協賛をいただいた地元関係者も列席してくださった。ご応募くださった投句は、千句におよぶ。宮城県石巻市の蛇田小学校の生徒を始め、各地からの応募があった。改めて関係者に陳謝の気持ちでいっぱいである。

佐々木久裕

～天空の地上絵を日本遺産へ～

天の川・交野ヶ原 プロジェクト

みなさまの「交野ヶ原」にまつわる記事・写真等
お待ちしております!!
★問い合わせ★ katanogaharapj@gmail.com

交野ヶ原 日本遺産

「交野ヶ原物語」とは
私たちが天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクトは、この交野ヶ原を、文化庁が認定する日本遺産へ申請登録を目指し、日々、活動を続けております。

日本遺産の申請・登録への道のりは長く険しいものです。また、念願叶い、日本遺産へ登録されたとしても、交野ヶ原に縁のある方々にとつて、「他人事」であつては日本遺産の看板も意味がなくなってしまう。

私たちは、交野ヶ原をより生活の中で身近に感じてもらいたいと考え、「交野ヶ原物語」を刊行しました。交野ヶ原という場所にまつわる過去・今・未来の時間軸、そして現代に生きる私たちの生活という横軸をつなぎ、老若男女が時を超えても手に取りたくなる『交野ヶ原物語』を皆様と共に創り上げてまいります。

第一回 星の俳句コンテスト **全国から約千句の応募がありました！**



令和元年、七夕を通じて交野ヶ原の文化振興をさらに促進し、ゆくゆくはこの土地に七夕がなくてはならない日となることを目的として、また、交野ヶ原の七夕文化の再スタートという意味も込めて、私たち天の川・交野ヶ原日本遺産プロジェクトは、「星の俳句コンテスト」を開催いたしました。

・交野ヶ原(現在の交野市・枚方市)は、七夕伝説をはじめとして、星にまつわる伝承・史跡・地名が集中して残る「星の降る里」「天空の地上絵」として全国でも珍しい地域です。「星の俳句コンテスト」第一回の表彰式の会場としては、平安時代に弘法大師が星を降らせたと伝えられる「降星伝説」に縁起を持つ、星田妙見宮にて行いました。日取りも、七月七日の七夕祭において行いました。

夏石番矢賞

オリオン座 星の時間の 砂時計

橋本来咲 宮城県石巻市立蛇田小学校

〔講評〕
東日本大震災に遭遇された宮城県石巻市からの投句です。オリオン座は、星座のなかでも、目立つものです。しかも大きな星座です。三ツ星は、狩人のオリオンのベルトとも言われていますが、日本では住吉三神としてあがめられてきました。海を往来した私たち祖先の記憶がこの天体に宿っています。橋本さんの俳句では、地上の時間ではなく、夜空の「星の時間」が作者の想像力と実験によってしっかりとらえられています。そしてその大きな舞台の中で、なるほどオリオン座は、「砂時計」として見えてきます。スケールの大きい俳句として推奨します。そして、夜空の星々に、秘密の仕組みを読み取ろうとしてきた、日本に限定されない人類のこれまでの営為も、この俳句は暗示しています。

大阪府知事賞

地上海よ 野ざらしの星 打上げよ

奈良拓也 長野県上伊那郡

〔講評〕
奈良さんの俳句では、大胆にも星が「野ざらし」と表現されます。宇宙空間に浮かぶ天体が、大地や大海原から、ロケットのように打ち上げられ、野原の雨や風にさらされて、たくましく輝き続けるのです。この「野ざらしの星」は、実は作者自身、あるいは作者がそうありたい自画像です。

星田妙見宮賞

星祭 少女の水色が 咲いている

野谷真治 神奈川県中郡

一般の部 大賞

星月夜 ピテカントロプス 歩きだす

高橋もこ 大阪府守口市

中高校生の部 大賞

流星群 「前前前世」の音がする

浅野樹 大阪府交野市立第三中学校

小学生以下の部 大賞

しかられて 正座しながら 星座見る

佐藤羽華 宮城県石巻市立蛇田小学校



生徒さんの代理出席として宮城県石巻市蛇田小学校の校長先生が旅費を自腹で出してお席くださいました。感謝!!



大阪府広報担当副知事のもずやんが大阪府知事賞を、交野市のおりひめちゃんが交野市長賞を受賞者へ手渡しました



自分の書いた短冊や俳句がどこに飾られているか探す楽しみも



夏石番矢先生の講演に聞き入っておられる黒田市長と北田教育長



応募作品を笹飾りして飾るために実行委員メンバーで一つ一つ紐を通していきました



長い参道の両側に飾られた色とりどりの短冊と応募作品には圧巻の一言

交野市長賞

四才児 自分の星座 作ってた

大澤奏 宮城県石巻市立蛇田小学校

枚方市長賞

僕の声 大地を伝う 星月夜

矢部大夢 埼玉県川越市立福原中学校

交野市教育長賞

きれいだな えんとつからみる おほしさま

水金凛太郎 ほしだ幼稚園

枚方市教育長賞

午前四時 犬の感情 春の星

松浦星大 大阪産業大学附属高等学校

今回、当プロジェクトでも俳句コンテストは初の試みでしたが、プロジェクト顧問である星田妙見宮の佐々木宮司や総代のみなさまのお力をお借りし、おかげさまでつつがなく終えることができました。実行委員メンバー自身も、俳句に向き合ういい機会をいただき、俳句を通じて多くのつながりが生まれ、人の心のあたたかさに触れることができました。また来年、第二回を行います。星への想いを俳句に託して、五・七・五で表現してみませんか？